



IFALPA Asia / Pacific Regional Meeting

in Ulaanbaatar 出席報告

1. はじめに

2015年8月3日～7日、モンゴル・ウランバートルで IFALPA Asia/Pacific Regional Meeting が開催されました。モンゴルでの IFALPA 関連 Meeting は初めての開催であり、総勢 35 名程の参加がありました。日本の国土交通大臣にあたる Road and Transportation Minister の歓迎のスピーチで幕が開け、3 日間にわたって活発な議論と意見交換が行われました。

モンゴル ALPA には約 200 名の Pilot が在籍しており、MIAT モンゴル航空は成田国際空港へ直行便を運航しています。既存のチンギスハーン国際空港に替わり、日本企業が中心となって新空港建設が予定されており、今後はアジア地域におけるモンゴルの役割が期待されています。

2. IFALPA RVP (Regional Vice President) 、および各国からの報告

<RVP (Regional Vice President) 報告>

➤日本が打ち上げた“ひまわり 8 号”によって、日本だけではなく世界各国でより詳細な衛星画像が広く利用され、今後の運航安全向上が期待されている。

➤近年起きているインシデントの多くは上空ではなく地上で発生しており、空港に根付いた RST (Runway Safety Team) の重要性が再認識されている。設置されていない空港での早期設立と取り組みが期待される。

注: RST は ICAO Annex 19、SMS により推奨されており、日本にはまだ設置空港はない。

➤2014 年のタイ国際航空に対する ICAO Safety Audit の結果が不適合となった背景としては、近年のタイにおける新規航空会社の増加により運航環境が激変し、Audit に十分対応しきれていない現状が指摘されている。同様に、新規航空会社の増加がみられるインドやインドネシアでも ICAO Safety 監査不適合が発生している。ICAO Safety Audit は 6 年に 1 度実施されている。

<各国からの報告>

➤中国 主要 4 社の中国国際航空(327 機)、中国東方航空(386 機)、中国南方航空(474 機)、海南航空(150 機)を含め、引き続き航空産業の成長が著しい。春秋航空が今年 1 月に民営化されるなど、国内での競争も激しさを増している。同時に Pilot 不足も顕在化しており、中国国内には約 23,000 人の ATPL 保持者がいるものの、今後は外国人 Pilot の大量採用も計画されている。

➤日本 今年 3 月に年齢制限が 67 歳に引き上げられたことや、その他 ANA グループ、JAL グループ、スカイマークなど、国内航空会社の現況を報告した。

- マレーシア 引き続きマレーシア航空では厳しい経営が続いている。MAB (Malaysia Airlines Berhad) と名称を改め今年 9 月に新会社として動き出した。6,000 名を超える人員削減も強行され、うち Pilot 25 名も新会社での雇用は提供されなかった。今後も様々な変化が予想される。
- 韓国 大韓航空(153 機)、アジアナ航空(86 機)の他、LCC 5 社が競争を激化している。MARS により一時期需要は落ち込んだものの、LCC 5 社は過去最高益を記録、Jin Air は今年度 B777 を導入してホノルル就航を予定している。

3. その他

- ① Asia/Pacific 地域初の火山活動対策運営グループが発足した。近年、この地域では様々な火山活動が報告され、航空機の運航に影響を及ぼしている。火山灰に関する Contingency Plan、Procedure の向上や、活発な火山活動の情報共有などを目指す。
- ② Regional Meeting 毎に行っている IFALPA Annex 29 の更新を行った。各国の状況に大きな変化はなく、引き続き各国の積極的な取り組みが期待される。
 (注) IFALPA Annex 29 : 世界の空港の中で、実際に当該空港に乗務した Pilot が、改善を必要とするのみなした空港がリストアップされている。(IFALPA HP <http://www.ifalpa.org/> 参照)
- ③ 中国からの参加者に対し、なぜ中国空域では中国語 ATC と英語 ATC が混在するのか、という質問があった。現時点では北京・上海・広州を目的地とする便の 80%が英語を使用している状況である、との報告があった。
- ④ インドの Pilot から、Germanwings 事例以降、現役 Pilot に対する過度な Mental Health Check が行われている、との報告があった。これを受け、IFALPA から 2015 年 8 月 5 日付で、Position Paper “Mental Health Requirements for Active Pilots” が発行された。今後もこの件に関しては議論が活発に行われると予測される。

4. まとめ



Asia Pacific Regional Meeting in Ulaanbaatar

ここ数年、中東やカザフスタン、モンゴルなど、過去に開催経験のない新しい場所で IFALPA の会議体が開催されています。これは新たな Pilot Association が IFALPA に加盟するなど、IFALPA の輪が広がっていることを示しています。世界的な Pilot 不足を背景に、今後世界中の Pilot 数は増加し、Pilot の流動も世界各国に広がると予想されます。IFALPA を通し最新の状況を注視しながら、ALPA Japan の活動に生かしていけるよう、取り組んでいきます。

以上